クス

ることが可能。価格は9万8000円（税別、取付工賃別）。

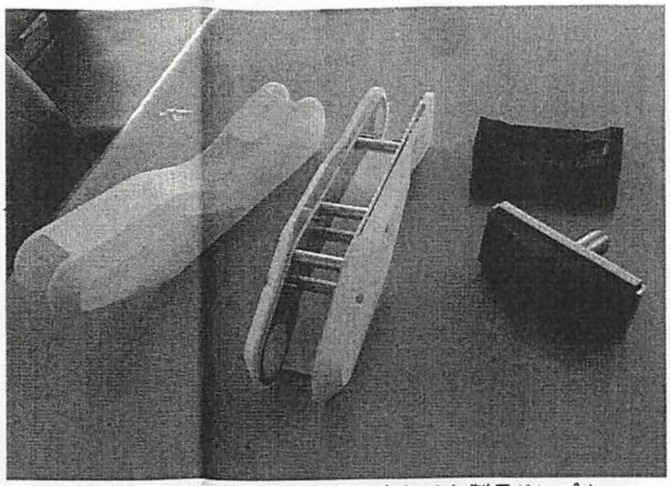
に加え、運転手の教育・管理にも活用したいとの要望が生まれている。デ

精密板金加工と3Dプリント部品組合せ

新分野の需要増やす

次世代型試作開発支援サービス

林製作所


金属部品と3D樹脂部品を組み合わせた製品サンプル

林専務

精密板金やプレス、レーザー加工を手掛ける林製作所（高崎市沖町368－1、林進社長☎027～343～1211）は、多品種小ロット精密板金加工と3Dプリント部品を組み合わせた次世代型試作開発支援サービスで新分野への需要を増やしている。

同社の特徴は、金型を使わず、図面から部品を製作する精密板金加工。金型が不要のため初期コストがかからず、低コストで多種多様なロットに対応できるのが強みだ。これにプレス加工や溶接を加えた複合板金加工として付加価値を付けている。現在、ロット平均20個を月に3000種類、合計6万個を生産し、大手電機メーカーやなどに提供している。

3Dプリンタとの組み合わせは、小ロット生産という双方の特性を生かしたもので、これをパッケージ化し、ロボット開発やドローン、IoT分野などに進出する予定だ。大型の3Dプリンタ部品は、ものづくり特化型クラウドソーシングサービスを利用。設計図面が読めるだけでなく、強度設計まで行う依頼ができるなど、業務の可能性を広げている。

ウェブでの情報発信にも力を入れており、ホームページをプロモーションツールとして活用、この5年間で全体の売り上げの10%近くが、ウェブからの問い合わせがきっかけとなっている。

林司専務は、「大手メーカーを頂点とした産業構造が崩れてきている中で、ベンチャーを中心とした新しい流れに自社の技術をフィットさせ、新たな販路を拡大したいと、このサービスを始めた」とした上で、「価値の見え方や見せ方、提供の仕方を変え、インターネットによるプロモーションなど、時代の流れをとらえていきたい」と話している。（中野博之）

新素材の鋳鋼品製造

顧客ニーズに対応し事業拡大へ

昭和電気鋳鋼

手塚社長

鋳鋼鋳物製造を手掛ける昭和電気鋳鋼（高崎市倉賀野町3250、手塚加津子社長☎027～346～1725）はこのほど、新素材の鋳鋼品製造で業容を拡大、さまざまな顧客の要請にこたえる体制を整備し、事業拡大に乗り出した。

同社は1939年創業の建設機器や鉄道車両の部品などを製造する独立系鋳鋼品メーカー。14年には新たに溶鉱炉や造型機を導入して生産体制を強化し、特殊鋼鋳鋼品製造では全国有数の生産量を誇っている。

こうした中、培った技術を生かした新素材の新たな鋳鋼品を開発する事業拡大を策定。耐熱、耐腐食、耐摩耗性に優れた新素材の開発は成功し、既に製品として提供した。今後、輸出用大型設備機器の部品などとして、生産量を高めていく方針だ。

手塚社長は、「顧客の要請と当社の技術がマッチングして、新しいステージの製品を作ることができた。今後も顧客にとってなくてはならない製品を作り、社員も製品も一流と言われるようになりたい。都市型産業拠点の高崎の特性を生かし、全国の顧客ニーズにこたえていく」と話した。

今回の事業拡大に当たっては、商工中金が15年4月に創設した「地域中核企業支援貸付制度」を適用、ぐんまみらい信用組合と協調して、金融面からのサポートを行った。

同制度は、地域中核企業が収益力向上のために行う新事業進出や事業再編などを、民間金融機関と協調して後押しするもの。直接融資だけでなく、経営課題に対するソリューションや情報提供を行い、支援対象企業を核とした地域関連企業への波及と地域経済全体の活性化を目指している。（中野博之）

大型鋳鋼品をモニュメントとする本社工場